

令和6年は診療報酬のトリプル改定となりましたが、新設された医療DX推薦体制整備加算とベースアップ評価料加算については会員各施設で算定されているでしょうか。日本医師会常任理事の長島公之先生のご講演では、全施設漏れなく算定していただきたいとのことでした。算定する施設が少ない場合、医療機関は十分な収入が得られていると国に判断され、次回の診療報酬改定の際に悪影響を及ぼす可能性が高くなるということです。日医HPのメンバーズルームには分かりやすい評価料算定方法の動画があります。会員の皆様には是非算定していただき、ベースアップ評価料加算で得た分を職員給与改善の一助としていただきたいと思います。

さて、本号では真志取浩貴先生のクリスマスらしいイルミネーションの写真が表紙を飾ります。寒空に映えるクリスマスツリーがとても印象的です。

巻頭報告の中で涌波常任理事による令和6年度女性医師支援・ドクターバンク九州ブロック会議の報告があります。女性医師バンクの就業成立件数は年々上昇傾向にあるようですが、周知の点が課題のようです。次年度の主催県は沖縄とのことなので、さらに充実した会議となることを期待したいと思います。

生涯教育コーナーでは沖縄県立中部病院小児科の荒木かほる先生に「変わりゆくRSウイルス感染症診療」の題で執筆いただいています。疫学を始め沖縄県での動向、成人における影響、

検査診断の変遷や治療薬・予防薬の展望について詳細な解説をされています。RSウイルス単独の迅速抗原検査には保険診療上の制限があるようなので注意していただきたいと思います。

本号のインタビューコーナーでは八重山地区医師会会長の宮良長治先生にお話を伺いました。会長就任はある意味必然のような印象を受け、宮良会長の医師会活動に対する熱意を強く感じました。離島かつ国境に近い立地の医師会としての特殊性や難しさを窺い知ることができます。

Team F-Vision 座談会の中での問題点として挙げられたことに広報のあり方があるようです。若手医師へどのようにアプローチし、医師会の魅力をPRするかが課題だと感じました。本広報誌をいかに若手医師の手に取っていただき有益な情報をお伝えするか、我々広報委員にとりましても重要な課題だと実感いたしました。Team F-Vision にはこれからも既存にとられないアイデアを期待しています。

安次嶺馨先生よりご寄稿いただいた随筆では、小澤征爾の魅力を語られており、安次嶺先生の小澤征爾愛の深さを窺い知ることができます。

一年を通して暖かい沖縄ですが、年末にかけて急に冷えてくる時節です。会員の皆様には健康にご留意いただき、新しい年を迎えていただきたいと思います。

広報委員 照屋 徹